




2023年5月9日

各 位

会社名：  **シャパンフーズ株式会社**
(コード： 2599 東証スタンダード市場)
代表者名： 代表取締役社長 細井 富夫
問合せ先： 執行役員CFO 西田 健一
(TEL： 0475-35-2211)

通期連結業績予想と実績の差異に関するお知らせ

当社は、2022年5月13日に公表しました通期連結業績予想と本日公表の実績に差異が生じたのでお知らせ致します。

記

1. 2023年3月期 通期連結業績予想と実績の差異(2022年4月1日~2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 10,500	百万円 400	百万円 550	百万円 450	円 銭 93.31
実績値(B)	10,083	144	315	246	51.11
増減額(B-A)	△417	△256	△235	△204	—
増減率(%)	△4.0	△64.0	△42.7	△45.3	—
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	9,576	△387	△171	356	73.88

2. 修正の理由

上半期につきましては、国内飲料受託製造事業において、第1四半期に新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の余波により国内飲料需要が低迷し、加工賃収入が減少したこと、また、エネルギー価格の高騰に伴いコストが増加したことにより、業績予想を下回りました。

下半期につきましては、国内飲料受託製造事業において、各種費用見直し、生産性向上によるコスト改善により、エネルギー価格高騰に伴うコスト増加による通期の影響は緩和できたものの、10月以降に各飲料メーカーが実施した価格改定や、物価高騰による消費者の買い控えの影響により国内飲料需要が低迷し、受注数量が想定以上に低下したことによる、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益の減少により、通期連結業績予想と本日公表の実績に差異が生じたものであります。

なお、海外飲料受託製造事業、その他の事業につきましては、概ね計画通りに推移しました。

3. 2022年11月2日公表 業績予想などの将来予測情報に関する説明に記載の対策の状況

- ブランドオーナーへの積極的なアプローチにより、受注の増加、採算性の改善を図ります。
 - 受注数量につきましては国内飲料需要の低迷もあり、通期計画未達となりました。採算性につきましては、売上高は下半期計画を上回りましたが、通期計画未達となりました。

- 新製品および新たな販売領域の受注を積極的に行い、受注の増加を図ります。
 - 新製品の受注につきましては順調に推移しましたが、新たな販売領域の受注につきましては、対応設備導入による生産開始の遅れなどにより、受注の増加に至りませんでした。
- オーバーホール期間の見直しなどによる稼働時間の極大化により、製造数の増加を図るとともに、エネルギー使用量、生産効率などあらゆる生産性向上により、コスト改善を図ります。
 - オーバーホール期間の見直しなどによる稼働時間の極大化を図りましたが、国内飲料需要の低迷もあり受注数の増加には至りませんでした。一方、各種費用見直し、生産効率などあらゆる生産性の向上によるコスト改善は進捗し、エネルギー価格高騰に伴うコスト増加による通期の影響を緩和しました。

4. 配当について

既に実施済の中間配当（10円）に、本日開催の取締役会で決議済の期末配当（17円）を加えた年間配当（27円）に変更はありません。

なお、本件は2023年6月23日開催予定の定時株主総会に付議する予定です。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により異なる場合があります。

以 上